SPORTS CLIMBING

スポーツクライミングのまち龍ケ崎基本構想策定審議会条例について

今期定例会において、「議案第１号　スポーツクライミングのまち龍ケ崎基本構想策定審議会条例について」が提案され、審議の結果、賛成多数で可決されました。この議案に関しては、本会議の質疑や討論、文教福祉委員会の審査において様々な意見が出されました。

▼本会議

ー質疑ー

後藤敦志議員　当市におけるスポーツクライミングの競技人口や、アリーナのボルダリングウォールの利用者数等が分かれば教えてください。

今回策定する基本構想では、将来的な施設整備も視野に入れたものになっているのでしょうか。

委託料の約２千万円の内訳を教えてください。

健康スポーツ部長　競技人口は把握できておりません。令和５年度のボルダリング教室の受講者数が述べ人数で１３０２名、一般利用者が述べ人数で１５６０名、合計で２８６２名です。

施設整備には多額の費用がかかるため、慎重な検討が必要ですが、施設整備の方針を基本構想に盛り込むことについては、審議会の意見を伺いながら検討してまいります。

委託料約２千万円の内訳は、基本構想策定審議会の円滑な運営支援として94万円、調査分析等に５９５万円、基本構想の策定費に７８０万円、イベントの企画運営費として５４７万円です。

ー反対討論ー

大野誠一郎議員　「スポーツクライミングのまち龍ケ崎」は、唐突、性急に思います。市民との議論が必要不可欠ですが、誰一人として「スポーツクライミングのまち龍ケ崎」のまちづくりの方向性が決定したことなど知りません。まちづくりを実現するのは市民です。市民を度外視して、まちづくりを展開することはできません。

また、大会を誘致することにより、一部の市民から施設整備の必要性が要望された際には、初期費用及び運営コストに多額の費用がかかる施設整備ありきということになると思います。施設整備ができても、まちづくりは進まないことになるでしょう。

ー賛成討論ー

岡部議員　スポーツクライミングのまちづくり構想は、龍ケ崎の持っているポテンシャルを生かしていく絶好のチャンスです。

スポーツクライミングの競技人口や施設は増えている状況です。また、龍ケ崎には野口啓代さんという、スポーツクライミングの第一人者と言える方が龍ケ崎市で育って、龍ケ崎市とも良好な関係を築いています。協力が得られるのであれば、なんとしても協力してもらって、龍ケ崎市をスポーツクライミングの聖地として、世界から人を呼べるようなところを目指していくチャンスではないかと思います。

これから市民と意見を交わし、機運を醸成していきながら、ある程度の予算をかけてでも、将来のための投資として、積極的に取り組んでいくべきです。

▲たつのこアリーナのボルダリングウォール

用語解説　「本会議」と「委員会」

本会議

本会議は、議員全員で構成され、提案された議案などについて質疑、討論、採決などを行い、市議会の最終的な意思を決定する会議です。公開を原則としており、傍聴することができます。

委員会

委員会は、少数の議員で構成され、本会議に提案された議案などを専門的に詳しく審査するために開催されます。委員会は「所管分野ごとに」設置され、その分野の議案を審議して、本会議に報告しますが、議会としての決定権はありません。委員会は議会と共に重要な役割を果たしています。

▼文教福祉委員会

委員数8名。福祉部、健康スポーツ部、教育委員会の所管に属する事項について審査を行います。

― 質疑 ―

椎塚委員　中長期的にスポーツクライミングをどのような考えでまちづくりに生かしていくのか、この条例を制定する目的をお伺いします。

スポーツ推進課長　当市在住のスポーツクライミングの第一人者であるお二人の協力を得ながらスポーツクライミング事業を進めたいと考えております。

にぎわい創出プロジェクト、次世代クライマー創出プロジェクト、ブランディングプロジェクト、環境整備プロジェクト、産業振興プロジェクト、資金調達プロジェクト、の6つの柱をプロポーザル方式で民間の知識や経験で事業提案をいただきながら、この構想を作っていきたいと考えております。

椎塚委員　クライミングを通して龍ケ崎を活性化させていくという意味は理解するが、核心に迫る部分が見えない。コンサル任せにせず、基本的なものを庁内で詰めていただきたい。

伊藤委員　条例制定後のスケジュールを教えてください。

スポーツ推進課長　本議会の後、まずは基本構想の審議会を速やかに設置したいと考えております。

久米原委員　基本構想を作ってからどうなるのかという心配もありますが、野口さんが力を貸してくれるという期待感もあります。野口さんご夫婦がどのように龍ケ崎と協力体制をしていただけるのか、約束のようなものはあるのですか。

スポーツ推進課長　約束ではないが、歴史民俗資料館でオリンピックのユニフォームの掲示、学校訪問、小学校での講演、子ども向け体験教室等、野口さんとの交流は始まっていると認識しており、野口さん自身もクライミングへの、そして龍ケ崎への恩返しというものもある。施設を作りたいという意向もあり、協力しながらこの事業を進めていければと考えてます。

大野誠一郎委員　施設ありきではなくて、ソフトの方から入りたいとのことですが、施設ありきだと感じています。

施設やその関連設備についても基本構想策定の際に検討するのでしょうか。競技人口が少ない中、機運の醸成が図られたら施設を整備することになるのですか。

スポーツ推進課長　当市での競技人口は把握できていませんが、ボルダリング教室の参加者は増えています。施設の規模にもよりますが、市民の皆様の機運の醸成ができて初めて施設整備に入れると考えております。

大野誠一郎委員　機運の醸成というのは、アンケート調査であれば、その進展がわかる形、競技人口であれば、競技人口が増えた等、それがわかるように示してください。全国的に多くのオリンピアンがいる中、このような形でまちづくりをしていこうという事例はありますか。

スポーツ推進課長　サーフィンやスケートボードを使ったまちづくりをしている自治体はありますが、当市のようにソフト事業を中心に様々なプロジェクトを立ち上げる形態はとっていないようです。市としては野口さんと一緒にまちづくりをしていきたいと考えております。

杉野委員　目的があいまいだと感じます。審議会の構成員はどのように想定していますか。

スポーツ推進課長　現段階の事務局案で、学識経験者が2名程度、関係団体の代表者またはその指名するものが6名程度、スポーツクライミングに関する専門的知識を有するものが2名程度、公募の市民2名程度で計12名を想定しています。

杉野委員　審議会を立ち上げると、推進派の人たちが決めてしまい、もう勝負ありなのかなと思うので、出発が非常に大切です。慎重に進めていただきたい。私個人としては難しい事業だと判断しています。

後藤光秀委員　競技人口が少ない中、最終的にこの施設を造るための構想だと聞こえてしまう人もいると思います。

感覚でも結構ですが、子どもたちのクライミング人口は増えているのでしょうか。

スポーツ推進課長　昨年の体験イベントチラシを小学生に配付した際に、その日のうちに定員60名に達したことからも、野口さん、楢崎さんの人気、クライミングの需要は高まっていると感じています。

アリーナでのクライミングスクールの受講者数も増えております。また、当市の施設は初級者向けなので、本格的にやりたい方は近隣市町のジムに通っているという報告を受けています。

競技人口は少ないですが、だからこそ世界大会等をこの街に誘致するチャンスがあると思っています。

後藤光秀委員　子どもたちが興味を持つことが何よりです。全国的にもボルダリング施設は急激に増えていますし、スポーツメーカーや市内のスポーツクラブなどとの連携も検討していただきたいと思います。

Youtube で常任委員会の様子を配信しています。

▲総務委員会　▲文教福祉委員会　▲都市経済委員会